

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2014 年第 27 週

(6/30~7/6)

6 月報合併号

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

◇ 手足口病、ヘルパンギーナが岐阜地区を中心に増加しています。→トピックス

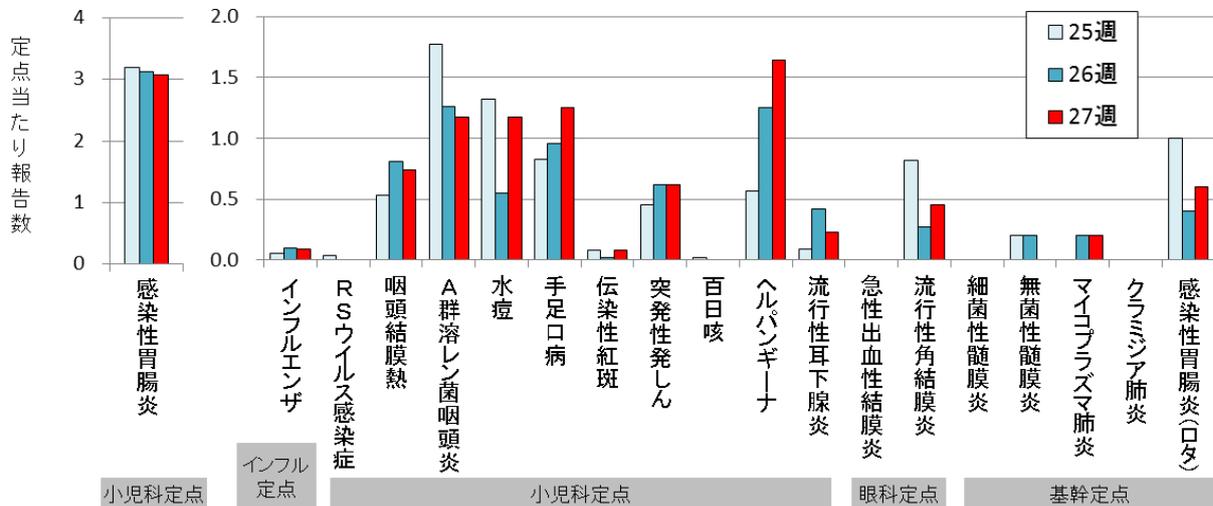
◇ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘も流行が続いています。

■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所名（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 9 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：なし
- 5 類感染症：後天性免疫不全症候群 2 例（AIDS1 例、その他 1 例）、破傷風 1 例

● 2014 年累計

1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	203 例	
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	17 例	
4 類感染症	E 型肝炎	3 例	デング熱 3 例
	A 型肝炎	1 例	マラリア 1 例
	つつが虫病	1 例	レジオネラ症 9 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	6 例	侵襲性肺炎球菌感染症 14 例
	急性脳炎	1 例	梅毒 3 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	破傷風 1 例
	後天性免疫不全症候群	8 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	ジアルジア症	1 例	風しん 1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例	麻しん 2 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

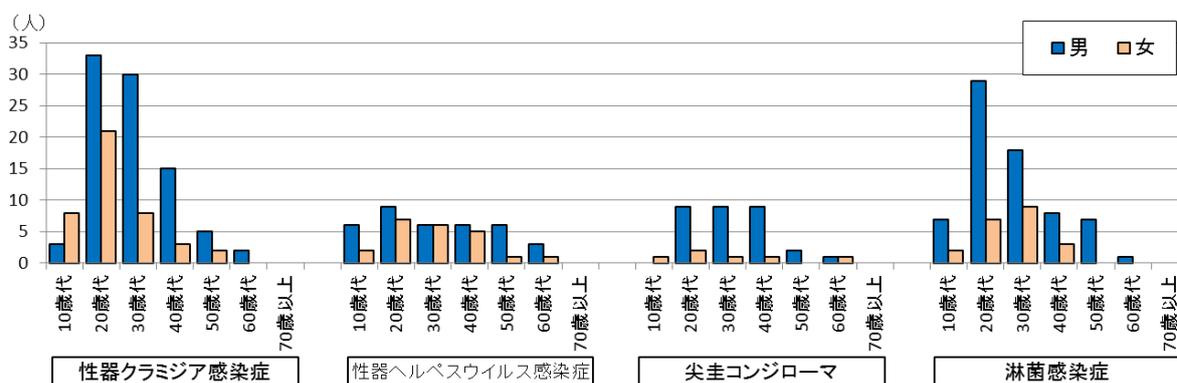
感染症発生動向調査週報 (IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■月報告定点把握対象疾患 <6月>

●性感染症（STD定点：15か所）

疾患名	報告数（定点当たり）					
	6月	男	女	5月	4月	3月
性器クラミジア感染症	23 (1.53)	19	4	23 (1.53)	23 (1.53)	19 (1.36)
性器ヘルペスウイルス感染症	6 (0.40)	4	2	6 (0.40)	12 (0.80)	14 (1.00)
尖圭コンジローマ	7 (0.47)	6	1	8 (0.53)	4 (0.27)	5 (0.36)
淋菌感染症	17 (1.13)	14	3	11 (0.73)	12 (0.80)	20 (1.43)

年齢階級別報告数（2014年1月～6月累計）



●薬剤耐性菌感染症（基幹定点：5か所）

疾患名	6月報告数 (定点当たり)	年齢群等
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	12 (2.40)	10歳未満 1例、10歳代 1例、30歳代 1例、60歳代 1例、70歳以上 8例
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	なし	—
薬剤耐性緑膿菌感染症	なし	—
薬剤耐性アシネトバクター感染症	なし	—

■病原体検出情報速報

病原体定点等から提出された検体の病原体（遺伝子を含む）検索結果（6月13日～7月9日結果判明分）

臨床診断名	病原体名	検出数 (人)	検体採取年月
腸管出血性大腸菌感染症	腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	3	2014年6月
	腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT1&2)	1	2014年6月
	腸管出血性大腸菌(O121:H19 VT2)	4	2014年6月
デング熱	デングウイルス 2型	1	2014年6月
	デングウイルス 4型	1	2014年6月

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターのHPをご覧ください。

感染症発生动向調査週報（IDWR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報（IASR） <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>

■トピックス

《手足口病・ヘルパンギーナ》

手足口病とヘルパンギーナは、いずれもエンテロウイルスによる感染症で、夏に流行する小児の代表的な疾患です。手足口病は手のひらや足の裏、口内の水疱性発疹、ヘルパンギーナは口内の水疱性発疹と発熱を特徴とします。いずれも、昨シーズンは比較的大きな流行となりましたが、今年も流行の兆しが見られます。

◆ 岐阜地区を中心に増加しています。

今年の県内における手足口病及びヘルパンギーナの患者報告数は、6月以降、週ごとに増加し、第27週は手足口病が66人（定点当たり1.25人）、ヘルパンギーナが87人（定点当たり1.64人）となっています。

現在のところ、いずれも岐阜地区での増加が目立っています。

◆ 保育所や幼稚園での感染拡大に注意しましょう。

手足口病、ヘルパンギーナともに1～3歳の年齢で好発しています。

乳幼児の集団生活の場である保育所や幼稚園では、感染が拡大しやすいため注意が必要です。

◆ 予防は手洗いの徹底と汚物の適切な処理です。

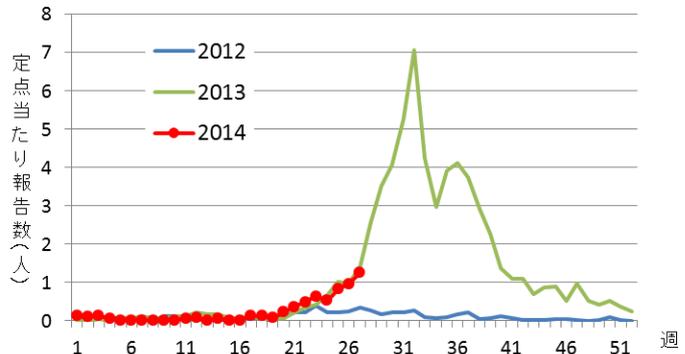
手足口病とヘルパンギーナの病原ウイルスは、患者の鼻汁や便に排出されます。咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込んだり（飛沫感染）、水疱の内容物や便に含まれるウイルスが手を介して口や目の粘膜に入る（糞口感染・接触感染）ことにより感染します。

子どもも大人もこまめな手洗いを励行し、おむつなど汚物の処理を適切に行いましょう。特にトイレ後やおむつ交換後の手洗いは重要です。また、保育所などではタオルの共用も避けましょう。

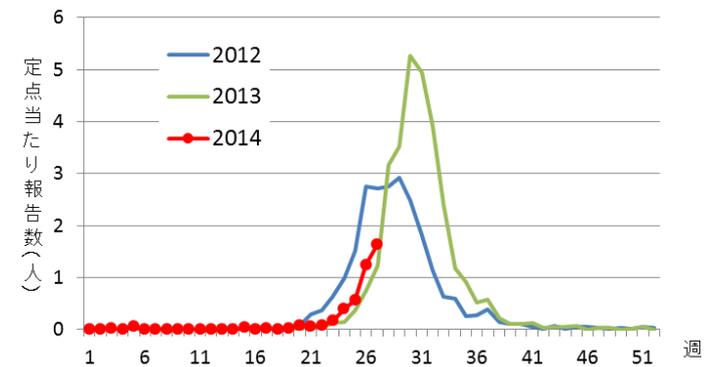
保健所管内別定点当たり報告数

保健所	手足口病			ヘルパンギーナ		
	27週	26週	25週	27週	26週	25週
岐阜市	1.67	1.22	2.44	3.89	2.33	1.44
岐阜	2.60	2.60	1.50	3.60	3.00	1.00
西濃	1.56	0.89	0.44	0.44	0.33	-
関	1.20	1.20	0.60	1.40	1.60	1.40
中濃	1.00	-	-	0.40	-	-
東濃	-	-	-	0.20	0.60	-
恵那	-	-	-	0.50	0.25	-
飛騨	-	-	-	-	-	-
岐阜県	1.25	0.96	0.83	1.64	1.25	0.57

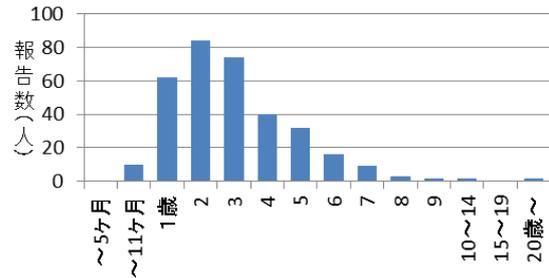
手足口病患者報告数(岐阜県)



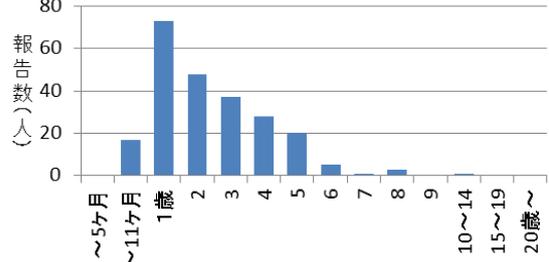
ヘルパンギーナ患者報告数(岐阜県)



年齢群別手足口病患者報告数
(県内53定点 2014年1～27週 n=336)



年齢群別ヘルパンギーナ患者報告数
(県内53定点 2014年1～27週 n=233)



感染症法における取扱い

手足口病及びヘルパンギーナは、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所（岐阜県53か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouhou-kijun.html>（保健医療課 HP）

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）HP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/>